平成29年度　横浜美術館 指定管理者業務評価表（外部評価）

項目	高橋委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
1 経営 政策目標 横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します。	【評価できる点】 内容、形式など性格の異なる展覧会と巧みに組み合わせ、予想以上の集客に結び付けた事。	【評価できる点】 ・トリエンナーレ主会場3回目の実績が功を奏し、職員総力をあげて取り組むなどの体制強化も図られ、またIBA理事会、総会のトリエンナーレ会期中開催など、横浜美術館による国際都市横浜の魅力の牽引は、優れた経営力を示すものとして高く評価できます。またこれに伴う、多彩なプログラム展開により、日本の現代美術の現況を広く世界に発信できたことも今後の伸展に向けて期待できるところです。 ・海外インターンの受け入れをはじめ各種取り組みにより、海外発信の基盤構築にも努めています。広報については、多様で効果的なチャンネルの発信によく健闘しており、外部との連携の幅の広さ、多彩なジャンルとの協働は、今後にむけて着実な実りを齎すものと期待できます。	【評価できる点】 政策目標に合致した有効な取組が実行され、成果を挙げることができたと思います。社会的協働・連携による取組みも進展しています。トリエンナーレ2017は、これまでの経験、とりわけトリエンナーレ2014での運営結果の分析が活かされていたと思います。	【評価できる点】 政策目標〈経営〉「横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します。」は、体制強化を図り、多角的に臨んだヨコハマトリエンナーレの実施、ならびにIBA理事会・総会開催、海外インターンの受け入れの実績によって、達成できていると思う。 外部機関との連携については、すでに様々な機関との事業が実施されており、成果も上げている。さらに、他分野でも美術館との連携に需要があるのかを調査し、活動域を広げていくのかは、現時点での体制や職員の就業環境を鑑み、検討しつつも、牽引していく役割を果たし続けてほしい。	【評価できる点】 美術館の国際グループが主体となったヨコハマトリエンナーレ2017の実施、IBA国際会議の招致と関連事業の開催など、国際都市横浜の美術の拠点として着実な成果を残している点は大いに評価できる。 外部との連携についても、様々な主体と連携し、多様な事業展開が実現しており、横浜美術館の専門性、強みをより広く発揮するために、さらなる展開を期待したい。
	【改善が必要（課題）と考えられる点】 メディア共催展の開催が不確実性を増す中、展覧会企画の財源をしっかりと確保していかなければならない。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 ・海外巡回準備に、機会をとらえてよく励んでいますが、通常の美術展やトリエンナーレと並行しての取り組み等、体制面での課題を抱えています。現状に照らした戦略の模索について、政策協働のスタンスにたって十分な検討を加えた上で、実現の方向へと舵をきることができれば、国際都市横浜の魅力を牽引する事業展開として望ましいと思います。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 海外発信の取組も見られましたが、海外巡回については中期Ⅲ期に延期された点が今後の課題となりました。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 海外巡回展については、指定管理者側と行政側で見解が異なり始めている。目標に掲げた時点での重要性と、現時点での事業の優先度については、十分に議論し、「政策協働」で方針を定めてほしい。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 海外巡回展の実施に向けて、IEO大会等でのアピールを含め、積極的な取組を行っているものの、具体的な成果に結びついていない。様々なハードルが予想されるが、今後も精力的な活動を行って、海外巡回展の実現に結びつけていただきたい。ただし、海外巡回展を実現すること自体が目的ではなく、横浜美術館にとってそれがどんな意義を有しているか、十分な検討と再確認が重要。
2 事業① 政策目標 質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げます	【評価できる点】 意欲的なテーマ設定の展覧会と一般愛好家向けの展覧会のコンビネーションが、素晴らしい。	【評価できる点】 ・東西交流に焦点をあてた本格的ファション展「麗しき東西交流」、孤立と接続性をテーマの「島と星座とガラパゴス」、更には横浜ゆかりの作家による「肌理と写真」、いずれもコンセプトが明確であり、多層多彩、特色ある豊富な表現が鑑賞者の興味を喚起し、アートと市民を繋いで楽しませる事業として、大いに評価できます。とりわけファッション展における文化研究財団との共同企画、トリエンナーレの構想会議からの切り口とその展開、石内展における「残されしもの」をテーマとしたメッセージ性のある見せ方など、成果の背景に、魅力的な美術展実施への工夫やエッセンスが見て取れます。NAPの活性化につながるスケジュールやサインの工夫なども実り、入場者数の増加に反映しています。	【評価できる点】 企画展の入場者数の目標設定が、平成26年度等と比較すると、平成29年度に関しては非常に正確でした。	【評価できる点】 今年度も引き続き、政策目標（事業①）「質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げます。」の達成をめざし、多様かつ質の高い事業を実施できたことを大いに評価したい。 特に、ヨコハマトリエンナーレ2017は、“「接続性」と「孤立」から世界を考える”をコンセプトに、様々な場所で、様々な領域の事業を展開した点は、「社会構造の闇」も浮き彫りにし、他の芸術祭では味わえない重厚さを感じる内容であったと思う。ヨコハマプログラムとして、寿町での水族館劇場の公演と野外展示を招聘したことによる成果も大きいと思う。 「ファッションとアート」は、国際都市横浜らしい企画展であり、大規模な展示施設を持たない京都服飾文化研究財団との協働事業であった点も、価値ある展覧会であったと思う。 また、「石内都」展は、デジタルが一般化しつつある現代社会に、ビンテージ・プリント、オリジナル写真の価値を再考させる意義深い展覧会であったと思う。	【評価できる点】 ファッションとアート、ヨコハマトリエンナーレ2017、石内都と、それぞれ企画の意図が明確な優れた展覧会であり、性格の異なる企画展をラインナップすることで、幅広い市民、観客層を呼び込むとともに、横浜美術館としてのカラーを打ち出そうという姿勢が感じ取れる。今後も、横浜美術館ならではの企画展の実現に尽力いただきたい。
	【改善が必要（課題）と考えられる点】 横浜美術館らしさを維持するためには、より広域への周知と広報活動、さらにはより潤沢な資金が必要。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 ・若手作家（NAP）について。写真、映像以外の分野についても広く紹介していくための予算確保に取り組む必要があります。企業との関係構築に加えて、若手作家支援に焦点を当てた市民によるファンドレイジングについても、仕組み、制度を含め検討、着手を期待します。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 企画展の入場者数の推計方法、目標設定の方式について、可能であれば事業報告書内に明記することが望ましいと思います。開館以来蓄積されてきたデータを、企画・戦略立案に活用していただきたいと思います。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 メディア共催展が東京に集中傾向にあること、New Artist Picks（若手作家支援）の財源確保は、美術館だけでは解決できない課題だと思う。こうした課題こそ、「政策協働」型で知恵を出し合い、人脈を駆使して、解決策を見出してほしい。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 メディアとタイアップした大量動員の見込める大型展が東京に集中する状況を打破するのは容易ではないと思われるが、入場者数と収入の拡大は、美術館運営の基盤を支えるためにも重要であることから、引き続き、大型展の実施に向けた取組を継続いただきたい。一方で、仮に、大型展の実施が困難となった場合も、横浜美術館ならではの取組を通して来館者の裾野を広げる努力も、地道に継続していただきたい。
2 事業② 政策目標 魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。	【評価できる点】 海外で所蔵品展を開催できる程の、日本の公立美術館としては一級のコレクションを活用したプログラム作りなどは素晴らしい。”コレクション・フレンズ”なども意欲的な試み。	【評価できる点】 ・企画展とゆるやかに連動する展示や新蔵紹介など、所蔵作品の価値を高め、コレクション展ならではの魅力を提供しているところに、入場者数増加など、成果がしっかりついてきています。美術情報センターは、トリエンナーレなど関連展示の取り組みが反映して利用人数が上昇。今後も美術展と情報センターの連携によるアートの楽しみ方の広がりを期待しています。	【評価できる点】 企画展との「緩やかな」連動の下、コレクションの多面的な活用が行われたと思います。	【評価できる点】 政策目標〈事業②〉「魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。」の達成をめざし、継続して質の高い事業を実施できている点を高く評価したい。 特に、コレクション展は、同時開催中の企画展に関連する作品群を展示し、横浜美術館でなければ成し得ない価値ある展覧会であったと思う。横浜美術館は、「コレクションの活用」に関しては、秀逸なキューレーションを誇る美術館と言える。	【評価できる点】 コレクション展の入場者数が目標を上回ったのは、企画展との緩やかな連動など、地道なキュレーションの成果だと考えられる。今後も、横浜市民および美術館の資産であるコレクションを活用した横浜美術館ならではのコレクション展に期待したい。
	【改善が必要（課題）と考えられる点】 トリエンナーレと連携した作品購入など、今後の収集方針の策定。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 ・コレクションの国内巡業については,豊富なコレクション魅力アピールの機会ととらえ、大規模改修期間の時期だからこその巡回展の見せ方が実現するよう積極的な取り組みを期待しています。学芸員の研究環境の整備も課題となっており、できるだけ早期に良い研究環境を整えることが必要です。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 美術情報センターの利用者数が達成指標の3.5倍以上であったことは喜ばしいことですが、利用者のニーズに物理的に十分対応できたのか、いささか気がかりです。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 美術情報センターで実施された展覧会との関連展示については、継続して取り組み、センターの存在意義をアピールすべきだと思う。 また、大規模改修期間に計画している巡回展に関しては、国内の文化施設だけでなく、小回りの利く巡回展を市内で展開することも視野に入れてほしい。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 一方で、コレクションの目玉となる作品については既視感が否めない（同じ作品が何度も展示されている印象）。厳しい財政状況を考えると容易ではないだろうが、大規模改修を機に、コレクションの新規購入を積極化するなど、今後のコレクションの収集方針についても横浜市と指定管理者が協議を行い、将来のビジョンを明確にしていただければと思う。
2 事業③ 政策目標 美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。	【評価できる点】 コレクションのデジタル画像化など、市民に開かれた姿勢。鑑賞・教育プログラムの充実。 美術情報センターの存在。	【評価できる点】 ・横浜トリエンナーレの機をとらえ、子供から大人まで幅広い世代や、障害のある方、外国の方その他様々な立場の方々に、展示活用のコンセプトによるそれぞれに適した豊富な事業を実施。中高生が小学生の鑑賞を導くプログラムをはじめ、学校向けツアーなど美術を通しての社会教育や、ボランティア市民による鑑賞サポートなど各種事業は,美術と市民を様々な糸口で繋ぐプログラムとして、今後の伸展に向けて、大いに期待できます。専門性の高い研修を増やすなど、美術を支える人材の育成にも注力されています。市民協働についても目標以上の参加者（ボランティアとーカー100名以上活躍）があり、様々な場面やプログラムに、市民が共感と発意をもってボランティア参加、質を保ちつつ、美術館を支える段階に着実に進捗しつつあります。	【評価できる点】 トリエンナーレの機会に、鑑賞教育、市民参画をともなう様々な事業が展開されました。	【評価できる点】 観賞教育、アトリエ事業、市民協働などの教育普及事業は、美術と市民との接点を数多く創出した実績を高く評価したい。政策目標〈事業③〉「美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。」は、今年度も、確実に達成できていると思う。 特にトリエンナーレでの教育普及事業の充実は目覚ましいものがあったこと、障がいのある方や外国人向けへのプログラムも拡充を図り、クリエイティブ・インクルージョンに対する取組を進展させたことも大いに評価できる。	【評価できる点】 横浜美術館の強みである教育プログラム、市民協働は、今年度も幅広い対象に着実に実施されており、大いに評価できる。
	【改善が必要（課題）と考えられる点】 今後の大規模改修の詳細など、未だ決定されていない事項の早めの開示。 さらに深く学校教育と連携して欲しい。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 ・教育プログラムにおける多彩でチャレンジングな取り組みは見事ですが、それに伴う人的稼働が負担にもつながっているようです。教育普及、一層の充実のためには、財源確保等の具対策が必要となりましょう。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 特になし	【改善が必要（課題）と考えられる点】 市民のアトリエについては、開館当初とは外部環境が異なることから、中長期での見直しが必要と思われる。横浜美術館だからこそできるアトリエ事業であれば、展覧会との関連性、アーティストとの連携は、「強み」「成長機会」として捉えるべきではなかろうか。「集客」効果だけでなく、ここだけの価値を市民に提供できる効果が期待できると思われる。 大規模改修中のアウトリーチ活動の方向性について検討するために、来年度～再来年度中に、市民意向調査（ターゲット機関へのニーズ調査）を行うことも検討してほしい。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 教育プログラムや市民協働はこれで十分、というラインを設定することが難しく、ある意味で際限がない。一方で予算や人員に限りがあることを考えると、戦略的、選択的な実施が必須であることから、これまでの実績や成果、課題などを総括し、横浜美術館として、誰にどのようなプログラムを提供すべきか、今一度、しっかりとしたビジョンを描いて取り組んでいただきたい。

項目	高橋委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
3 施設の運営事業① 政策目標 お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います。	【評価できる点】 ビジターサービスのきめ細やかなセッティング。	【評価できる点】 ・企画展ごとの夜間開館（首都圏や会社帰りを対象として）など、きめ細かい、来館者サービスにつとめ、館内の利便性を高めるなどの工夫に努めており評価できます。	【評価できる点】 団体を対象とした事前レクチャーは今後の発展・拡大の可能性が期待できる試みであると思います。	【評価できる点】 接客に対する質向上への取り組み、Wi-Fiの拡充、夜間開館、学会ガラ・ディナーの誘致、カフェやショップでのサービスなどの積極的な取り組みを大いに評価したい。	【評価できる点】 計画に沿って着実に実施されている。
	【改善が必要（課題）と考えられる点】 ショップやカフェは、付加価値をつけるためにもう一工夫魅力的な装いが欲しい。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 ・様々な人に開かれた美術館として、昼夜の鑑賞者にも柔軟な発想で対応するなど、多々メニューを用意しており、引き続き効果的、効率的な発想の取り組みを期待しています。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 近隣就業者は増加傾向にあると思います。地域のステイクホルダーとして、何らかの優待扱いを実施することも考えられると思います。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 どのようなターゲットに対して開いていくのか、中期計画が必要ではないか。 クリエイティブ・インクルージョンの観点から、取り組み成果を整理し、示すべきではないか。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 来館者サービスの充実は、ハードによる部分が少なくない。大規模改修に際して、これまでの問題点や課題を洗い出し、来館者目線でより居心地の良い美術館、また行ってみたいと思える美術館となるよう、しっかりと検討を行い、大規模改修の設計に反映させていただきたい。
3 施設の運営事業② 政策目標 財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します。	【評価できる点】 特にありません。	【評価できる点】 ・適切な施設運営が行われています。ファンドレイジングについては、数値では目標増数に届かなかったものの、企業への、目標を上回る精力的な営業活動、昨年に引き続いての契約数の増加等、持続可能な運営実現化への取り組みによく健闘されています。	【評価できる点】 特になし	【評価できる点】 持続可能な運営をめざし、財団内部でできる人材育成や体制整備、企業協賛の獲得などを行っている点を評価したい。	【評価できる点】 計画に沿って着実に実施されている。
	【改善が必要（課題）と考えられる点】 ファンドレイジングの強化。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 ・引き続き安全に施設管理をし、市との協働により、大規模改修に向けて、美術と市民の新たなステージを描き、財源（市民によるファンドレイジングの検討等）、体制、事業確定などの準備実施に向け邁進していただきたい。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 政策協働型の指定管理による管理運営ということが、財政基盤や年度収支にどのような影響を与えているのか、市民に分かりにくいのではないかと思います。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 大規模改修に向けて、市側がイニシアティブをとり、予算確保に努めてほしい。庁内説明資料作成は美術館側もこれまで同様協力し、政策協働型で進めてほしい。 また、大規模改修にあたって、レストランや市民ファンドのあり方についても検討してほしい。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 大規模改修は施設管理の課題を解決するチャンスであるだけではなく、ファンドレイズの仕組みを検討する好機とも考えられる。改修後の再オープンの際に、諸外国の美術館に見られるような会員寄付制度（寄付額に応じたサービスの付与）の導入、ネーミングライツ（施設全体ではなく、アトリウム、ギャラリー、美術情報センター等、個々の施設を対象にする方法もある）などについて、検討する価値があると思われる。
4 その他の業務 政策目標 政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します。	【評価できる点】 特にありません。	【評価できる点】 ・予定通り実施できています。	【評価できる点】 財団内他文化施設、横浜市事業と連携した運営が行われたと思います。	【評価できる点】 特になし。	【評価できる点】 計画に沿って着実に実施されている。
	【改善が必要（課題）と考えられる点】 特にありません。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 特になし。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 特になし	【改善が必要（課題）と考えられる点】 指定管理者側には特にないが、市側に対しては、下記について検討してほしい。 「政策協働による指定管理の推進」について、改めて指針を整理してほしい。 当初の考え方であれば、指定管理者の自己評価に加えて、行政側は、一次評価（政策協働で行ったことに対する自己評価・成果と改善点）と二次評価（指定管理者の自己評価に対する外部評価）を示すべきでないかと思う。他の施設と足並みを揃えるために、評価表のフォーマットを改編しなくてもよいが、口頭あるいは別紙で、そうした取り組み姿勢を示してほしい。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 特になし
5 人員計画	【評価できる点】 多岐に渡る専門家の職能を早くから導入、活用。	【評価できる点】 ・計画通り実施できています。	【評価できる点】 特になし	【評価できる点】 「国際都市横浜」の美術館として、「専門性を発揮できる組織」に成長している点を評価したい。	【評価できる点】 計画に沿って着実に実施されている。
	【改善が必要（課題）と考えられる点】 特にありません。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 ・中期計画を見据え、新しいステージに適した人員計画の検討を期待します。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 特になし	【改善が必要（課題）と考えられる点】 「美術と市民を様々な糸口でつないでいく」ためには、多くの人員を要する。そうした美術館像をめざすのであれば、横浜市は、指定管理者に対して、人員確保できる予算を提供すべきではないか。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 特になし
6 留意事項	【評価できる点】 特にありません。	【評価できる点】 ・計画通り実施できています。	【評価できる点】 特になし	【評価できる点】 適正に実施されていると思う。	【評価できる点】 計画に沿って着実に実施されている。
	【改善が必要（課題）と考えられる点】 国内・海外の美術館とのより強固な連携ができないか？	【改善が必要（課題）と考えられる点】 特になし。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 特になし	【改善が必要（課題）と考えられる点】 特になし	【改善が必要（課題）と考えられる点】 特になし
7　収支計画	【評価できる点】 特にありません。	【評価できる点】 ・事業収支面においては、有料入場者数増などよく健闘され、評価に値します。	【評価できる点】 当初予算の範囲内で事業運営がなされた点は評価できます。	【評価できる点】 黒字も出ており、高評価。	【評価できる点】 計画に沿って着実に実施されている。
	【改善が必要（課題）と考えられる点】 特にありません。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 自主財源を厚くすることも持続可能を旨とするうえで重要であり、ファンドレイズについても今後のより積極的な取り組みを期待したいと思います。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 特になし	【改善が必要（課題）と考えられる点】 外部資金導入策をさらに検討してほしい。	【改善が必要（課題）と考えられる点】 特になし

総括	逢坂館長リーダーシップの下、全体として常に活発な活動を続ける横浜美術館という印象。 施設のリニューアルを経て、さらに発展して欲しい。	・展覧会について、地域性や歴史性、横浜を創作活動の拠点とする作家に焦点をあてる等、魅力ある企画力と見せ方に呼応して、来館者数も目標に達し（石内展は目標値に僅差で及びませんでしたが、内容反響とも高評価）、29年度も各展覧会について、企画から運営まで吟味とチャレンジの融合する事業経営を展開しており、高く評価できます。横浜美術館独自の切り口による優れた企画力が鑑賞者の興味を喚起し、コンセプト重視の質の高さが光ります。 ・横浜トリエンナーレに合わせて開催の、IBA理事会・総会の文化庁との共催、それにともなう多彩なプログラムの提供など、機をとらえ現代美術の現況を広く世界にむけて発信しています。美術の拠点として確たる発信力をもち、国際都市としての魅力を牽引する横浜美術館の優れて豊富な事業展開は、市民にとって有形無形の文化資産として着実に蓄積されていきます。地域や社会に開いて、外部組織との連携も積極的に取り組んでおり、今後に期待できるところです。 ・ボランティアトーカーの前回を上回る参加者数の増加など、市民協働の認識にたったボランティアの様々な活躍にもみてとれますが、教育プログラム、アウトリーチ、コレクションフレンズなど市民や社会と美術館を繋ぐ豊富なチャンネルが用意されており、当該年度もその深化や持続を図る努力が丁寧に推進され、成果をだしていることは大いに評価できます。 ・引き続きクオリティが高く、持続可能な美術館経営を目指していただきたいと思います。	経営、事業ともに、平成29年度の達成指標をクリアーできていると思います。指定管理料収入を所与としたうえで、適切な企画・運営を実行できたと思います。	「国際都市横浜の美術の拠点」「次世代の美術振興」については、質の高い活動を継続的に展開している点を高く評価したい。 今年度の「ヨコハマトリエンナーレ」は、横浜美術館が主会場のひとつとして開催されて3回目。今年度は、横浜美術館が開館当初から行ってきた特徴ある観賞教育、アトリエ事業が、ヨコトリでも十分に発揮でき、美術館の魅力を広くアピールできたと思う。これまでの継続が花開いたと言えよう。 今後は、横浜美術館の外部環境や内部環境をしっかりと分析し、ビジョンを描いた上で、大規模改修前・改修中・改修後の各フェイズの役割を明確にした中長期計画を策定し、より価値ある美術館に成長・発展してほしい。	3年に一度のヨコハマトリエンナーレをはじめ、企画展、コレクション展とも着実な成果をあげている他、教育プログラムや市民協働の事業も充実している。一方で、メディアとの共催による大型展は、東京一極集中の度合いを高めており、その点についてはさらなる検討、取組が望まれる。 大規模改修は、ハード面のみならず、事業内容や運営でも「新・横浜美術館」をアピールできる大きなチャンスであり、これまでの実績を継承しつつ、ぜひ新しい基軸を打ち出していただきたい。

平成29年度　横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

使命
(1)国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2)美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3)未来をになう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4)文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄（数値目標のみ･記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			平成29年度計画		実施状況			評価	
項目		目標の実践	達成指標	目標	実績	チェック	説明	自己評価	行政評価
1 経営 政策目標（経営）横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します。	1	(1) 横浜トリエンナーレ ［重点的な取組み ］	●ヨコハマトリエンナーレ2017の体制・スケジュールを市に提案・協議：全館体制で取組み強化し実施 ※中期目標：参考：入場者数130,000人【前回実績】	実施	実施	－		【成果】 ・ヨコハマトリエンナーレ2017は、横浜美術館を主会場の一つとしてから3回目となり、今回は国際グループを中心にほぼすべての職員がヨコハマトリエンナーレ2017に携わりました。これらの経験を踏まえ、国際展の企画運営の課題をH30に開催するシンポジウムなどを通じて広く検証します。 ・H26に正式発足した当時より館長の逢坂が理事を務めてきたIBA(International Biennale Association)理事会・総会を、ヨコハマトリエンナーレ2017会期中に文化庁と共催しました。約20名の世界各国の国際展関係者に対し、理事会・総会に加え、関係者ワークショップ、公開セミナー、近隣文化施設ツアーを提供することで、横浜トリエンナーレだけでなく日本の現代美術の状況を世界に発信しました。 【課題】 ・美術館と横浜トリエンナーレの活動を一体的に推進するようなオフィスやネットワーク環境の整備をし、より効率的な事業を提供することを検討します。	【評価できる点】 ・国際グループ設置により、取組体制を強化した中で横浜トリエンナーレが開催されました。会期中、国際ビエンナーレ協会の理事会・総会を横浜美術館で開催するなど、世界各国の国際展に関わるディレクター・キュレーター等の関係者に対し、横浜美術館を起点とする発信力を示した点を評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・特になし
	追加1		・その他【追加実績】	-	実施	－	・9/25-28 IBA(International Biennale Association)理事会・総会 ・9/26-27 CCNJ(Creative City Network of Japan)国際展部会		
	2	(2) 海外への発信 ［重点的な取組み］	●コレクションパッケージ展あるいは企画展の海外巡回：H30巡回にむけて準備 ※中期目標：1～2回/3年	実施	中期Ⅲ期に実施検討	－	・4/26-28IEO大会(International Exhibitions Organizers Conference)で当館企画プレゼンテーション ・9月　中期Ⅲ期に実施検討を決定	【成果】 ・海外インターンについては、国際グループで1名受入れ、今後は、従来よりも継続的・組織的な人的交流となる枠組みを、H30に向けて構築します 。 【課題】 ・海外巡回については、H30巡回にむけて準備を行ってきましたが、中期Ⅲ期に実施検討したいと考えています。この5年間、海外巡回を想定した企画展を構想し、企画展の巡回勧誘を海外出張時に各学芸員が行い、コレクション展の勧誘をIEO大会(International Exhibitions Organizers Conference)で国際グループが行うなどしてきました。その経験を鑑み、一層戦略的な企画や勧誘なしには海外巡回は実現しないと考えています。しかし、通常の展覧会と横浜トリエンナーレを企画運営しつつ、海外巡回を戦略的に実施することは、現体制では難しいと考えています。今後、体制を調えて海外巡回を実施するかどうか、中期Ⅲ期に検討します。	【評価できる点】 ・事業計画に掲げた、海外インターンの受入以下の目標は着実に実施されています。 【改善が必要と考えられる点】 ・コレクションパッケージ展等の海外巡回については、本中期3年中1～2回実施の目標が、Ⅲ期に持越しとされています。早期に検証のうえ、確実に成果に繋げられるよう、取組を期待します。
	3		●海外インターン受入	1回/年	1回/年	B	・4/1-12/26 1名受入れ		
	4		●日英での展覧会の会場パネル、カタログ作成	1回/展	1回/展	B	・会場パネルは冒頭パネルと章パネルを日英併記 ・カタログは概要、奥付、挨拶、作品リストを日英併記		
	5		●日英での紀要の発行	1回/年	1回/年	B	・3/31発行（サマリーを日英併記）		
	6		●外国人団体向けボランティア・トーク	1回/年（再掲）	1回/年（再掲）	B	・鑑賞教育ボランティアによるトークで実施		
	7		●日英での展覧会プレスリリース作成	1回/展	1回/展	B			
	8		●海外メディアへの展覧会プレスリリース送付	1回/展	1回/展	B			
	9		●海外VIPへの展覧会招待状送付	1回/展	1回/展	B			
	10		●海外来館者の把握	1 回/年（H28.4以降継続実施）	1 回/年（H28.4以降継続実施）	B			
	11	(3) 広報	●展覧会および全館広報などの通常業務	実施	実施	B		【成果】 ・ぐるっとパスの新規加入、ファッション展およびトリエンナーレの日曜美術館での放映等、首都圏・横浜向けに重点をおいた展覧会毎の広報を展開しています。 【課題】 ・現在は、特徴ある広報活動のためには人的稼働で対応するため、残業が非常に多くなっています。今後は、館内で協議して、効率的な業務の進め方を検討していきたいと考えています。	【評価できる点】 ・新規の取組を含め、首都圏からの誘客に向けた活動を着実に行っており、様々な広報のチャンネルを活用した幅広い広報活動を実施しています。 【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き、展覧会ごとの企画内容、想定される客層等を踏まえた、広報・プロモーションの実践を重ねるとともに、効果についての検証を重ねながら、精度を高めることを期待します。
	12		□ 首都圏と横浜の各々に焦点をあてた広報	1回/展	1回/展	B	・ファッション：三菱一号館相互割引（首都圏）、三菱地所レジデンスチラシポスト(横浜) ・ヨコトリ：シティリビング割引（首都圏）、タウンニュース割引（横浜） ・石内：アートフェア東京2018割引(首都圏)、フォトヨコハマ2018・CP+2018割引(横浜)		
	13		□ウェブを活用した全館広報	1回/年	1回/年	B	・4/27インスタグラマーイベント、6月ウェブ公開		
	14		□露出件数	700件/年	5,127件/年	A			
	15		□ウェブサイトアクセス数	5,000,000件/年	6,625,162件/年	A			
	16		□メールマガジン登録数	500人増/年	768人増/年	A			
	17		□Twitterフォロワー数	3,000人増/年	4,685人増/年	A			
	18	(4) 外部との連携	●専門館連携あるいは外部連携をしつつ、専門性を活かした横浜市推進事業との連携し、オリジナリティの高い事業を実施	2回/年	10回/年	A	・3/25-6/25写真パネル展[大佛記念館連携] ・5/6ADBレセプション[横浜銀行連携] ・6/14ファッション展コンサート[みなとみらいホール連携] ・6/16-18イメージフォーラムフェスティバル[イメージフォーラム連携] ・1/6クラシックヨコハマ「音遊びワークショップ」[市連携] ・2/23-3/4フォトヨコハマ根付写真展[市連携] ・2/25「きくたびプロジェクト」体験＆アウターセッション（1/15 15点公開）[ACY連携] ・3/1CP+オープニング[市連携] ・3/2-4東京藝術大学映像研究科アニメーション専攻第9期生修了制作展[大学連携] ・3/17神奈川県ライトセンターワークショップ[神奈川県ライトセンター連携]	【成果】 ・当館の専門性を活かし、横浜市、財団内施設、文化組織、企業等との連携による事業を実施し、当館の活動を広げています。特に「高円宮妃殿下写真展と現代根付コレクション」など横浜市の政策的な事業との連携には期中にも優先的に対応し、横浜の文化振興と発信を支えています。 【課題】 ・現在は、互いに専門性を活かし美術振興に資する事業の他、収益や市政策に寄与する事業を実施しています。より効果的、効率的な事業の推進に向け、館内での検討を進めます。	【評価できる点】 ・様々な外部組織との連携による事業に対し、非常に積極的に取り組んでいる点を評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・現在外部との連携は十分に達成できています。今後も様々な対象との連携により、さらに美術館の魅力を広げられるような取り組みを進めていくことを期待します。

平成29年度　横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

使命
(1)国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2)美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3)未来をになう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4)文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄（数値目標のみ･記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			平成29年度計画		実施状況			評価	
項目		目標の実践	達成指標	目標	実績	チェック	説明	自己評価	行政評価
2 事業 政策目標（事業①）質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げます	1	(1) 企画展	●ファッションとアート　麗しき東西交流【会期：4月15日-6月25日・62日間】入場者数	45,000人（726人／日）	45,805人（739人／日）	B		【成果】 ・企画展合計の目標20万人に対し、実績は201,276　人（100.6%）と、計画通りに進捗しました。 ・ファッション展は、ファッションの研究財団との共催、当館初の本格的なファッション展、開港以降の東西交流に焦点をあてた横浜らしい展示などに開催意義があり、目標を上回る来場者数となりました。 ・ヨコハマトリエンナーレ2017は、多国籍の多様な領域の専門家を交えた構想会議により孤立と接続性をコンセプトとし、そのコンセプトを、展覧会や様々な関連事業を通じて多層的に表現したことに特徴があります。このようなコンセプトを重視した展覧会は、地域振興に力点がある日本の国際展の中では希少な存在としてメディアからも注目を集め 、来場者も目標を上回りました。 ・横浜ゆかりの作家である石内展は、毎日新聞「写真」の回顧において作家ゆかりの横浜と桐生を結びつけた充実した展覧会として、多くのメディアに取り上げられ、美術ならび写真関係者から高い評価を得ました。 【課題】 ・石内展の来場者数については、会期中、大雪の日もあり、目標にはわずかに及びませんでした 。 ・企画展については、メディア共催展が東京の一部の地区に集中し始めており、横浜美術館の従来の来場者数を維持することが難しくなってきています。この状況を打開するための対策を、財源等も含めて検討を進めます。	【評価できる点】 ・一部目標に達しない展覧会はあったものの、年間を通した合計では目標入場者数を達成できました。 ・美術館主催の2つの企画展について、ファッション展では横浜の地域性や歴史性、石内展では横浜を創作活動の拠点とする作家に着目し、それぞれ独自の切り口により意義深い企画が実施されました。 ・トリエンナーレについては、横浜らしさを意識しつつ、各アーティストによる、コンセプト・テーマに沿った、多彩な表現の場を提供し、また、アートを通じて世界が抱える様々な問題を考える契機となりうる企画構成となりました。 ・これらの取組により、横浜美術館の役割が一層高まったものと評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・横浜美術館として、どのように館の特色を打ち出し、その魅力をアピールできるか、引き続き検討重ねていくことを期待します。
	2		●ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」【会期：8月4日-11月5日・88日間】入場者数	130,000人（1,478人／日）	131,112人（1,490人／日）	B			
	3		●石内都　肌理と写真【会期：12月9日-3月4日・68日間】入場者数	25,000人（368人／日）	24,359人（353人／日）	B			
	4	(2) New Artist Picks	●New Artist Picks 開催	1回/年	1回/年	B	・3/17-4/22谷保玲奈展	【成果】 ・若手作家支援(NAP)については、過去の経験を踏まえ、スケジュール、会場、サインに工夫を重ね、目標を超える来場者にご来場いただくことができ、美術関係者をはじめとして、様々な方にご観覧いただきました 。 【課題】 ・現在は、予算に制限があるため、写真や映像などの分野に偏っています。今後は、館内で協議して、それ以外の分野の作家を広く紹介することが可能になる財源を検討していきたいと考えています。	【評価できる点】 ・企画から学芸員が積極的に携わり、若手作家との関係を築けていることが見て取れ、入場者数も大きく上回っていることを評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・横浜美術館での若手作家支援の場が、その作家の活躍の契機となり、若手作家の目標とされるな枠組みとなることを期待します。
	5		入場者数	1,500人	6,717人	A			
	6		展覧会後5年間の作家の活動を把握	1回/年	1回/年	－			
政策目標（事業②）魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。	7	(1) コレクション	●コレクションの形成、保存に関する通常業務	実施	実施	B	・10/11　内部検討委員会 ・12/13,15収集委員会 ・10/31　前年度目録発行	【成果】 ・コレクション展合計の目標7.37万人に対し、実績は94,764 人（128.6%）と、計画を上回って進捗しました。 ・コレクションによるパッケージ展の国内巡回については、H30夏の2件の巡回に向けて準備しています 。 ・そして、大規模改修が予定されている中期Ⅲ期の間に、コレクション撮影・公開準備等を 定しており、9月に実施事項、予算およびスケジュールを確定しました。 【課題】 ・収蔵庫増など環境の整備とコレクション財源の充実をはかり、より効率的で質の高い事業を提供することを検討します。 ・コレクション国内巡回については、大規模改修の時期に、当館コレクションを十分にアピールするような巡回展ができるよう、企画・営業の両面で積極的に取組たいと考えています。	【評価できる点】 ・コレクション展では、周辺地域で開催された「全国都市緑化よこはまフェア」と連動した展示、所蔵品の多い「シュールレアリズム」を前面に出した展示等、企画展テーマとは別の、独自企画性を打ち出した展示により、所蔵作品の魅力を多面的に伝え、集客にも結び付けました。 ・コレクションによる国内巡回展については、本中期期間内の実施に向け、着実に準備が行われました。 【改善が必要と考えられる点】 ・コレクションのパッケージ展では、今後の大規模改修期間における巡回展も見据えて、他館へのアプローチを積極的に行っていくことを期待します。
	8		●コレクションの活用	－	－	－	－		
	9		・1期【会期：3月25日-6月25日・80日間】入場者数	47,000人（588人／日）	59,616人（745人／日）	A			
	10		・2期【会期：12月9日-3月4日・68日間】入場者数	26,700人（393人／日）	35,148人（509人／日）	A			
	11		・コレクションパッケージ展国内巡回：H30巡回にむけて準備 ※中期目標：1回/3年	実施	実施	B	・H30.6-9巡回に向けて準備 ・H30.7-9巡回に向けて準備		
	12		・コレクションの画像と解説をウェブ公開	10作品/年	10作品/年	B	・11/22公開		
	追加1		・その他【追加実績】：Ⅲ期に向けたコレクション撮影・公開準備等	－	実施	－	・9月　実施事項、予算およびスケジュール確定		
	13	(2) 美術情報センター	●収集、分類、保管、利用者提供などの通常業務：	20,000人/年	71,692人/年	A		【成果】 ・美術情報センターでは、ヨコハマトリエンナーレ2017の作品展示と関連展示（ヨコハマプログラム）があった影響で、利用人数が急増しました。 ・そして、大規模改修が予定されている中期Ⅲ期の間に、美術情報センターの所蔵映像資料デジタル化を予定しており、9月に実施事項、予算およびスケジュールを確定しました。 【課題】 ・環境の整備をし、より効率的で質の高い事業を提供することを検討します。	【評価できる点】 ・トリエンナーレを中心に、展覧会と関連した関連展示の取組により、利用人数が大きく伸びたことは、高く評価できます。 【改善が必要と考えられる点】 ・特になし
	14		●普及のための事業	5回/年（展覧会と連携した特別展　3回/年、トークイベント　1回/年、学生向け研修　1回/年）	5回/年	B	・3/24-7/23 ファッション展連動企画特別資料展示 ・8/4-9/13,9/15-11/5横浜トリエンナーレ連動企画特別資料展示（ヨコハマプログラム） ・11/23-3/20石内展特別資料展示 ・10/7横浜美術館・中央図書館連携事業に関連するヨコハマライブラリースクールでのトーク ・5/20鶴見大学「特別実習Ⅰ」ヨコトリ関連展示　横浜美術館現場ガイダンス		
	15		●第Ⅲ期に向け、開かれた専門性をめざした具体的な取組みを検討：Ⅲ期に向け以下を試行：所蔵映像資料デジタル化 ※中期目標：平成28年10月　検討、平成29年　試行、平成30年　検証予定	実施	実施	－	・9月　実施事項、予算およびスケジュール確定		
	16	(3) 調査・研究	●紀要の発行(論文3本以上,日英併記,販売検討)[再掲：日英併記]	1回/年	1回/年	B	・3/31発行(論文3本，日英併記，販売は経費上実施できず)	【成果】 ・計画通り進捗しました。 【課題】 ・現在の紀要は、サマリーのみを英訳しています。今後は、館内で協議して、全文を英訳し広く海外に当館の研究成果を発信できるようになる予算を検討していきたいと考えています。 ・学芸員の研究スペースや資料保管場所の整備をし、より効率的で質の高い研究を展開することを検討します。	【評価できる点】 目標通り実施できています。多言語化し、魅力の発信に繋げていることを評価します。 【改善が必要と考えられる点】 特になし

平成29年度　横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

使命
(1)国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2)美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3)未来をになう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4)文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄（数値目標のみ･記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			平成29年度計画		実施状況			評価	
項目		目標の実践	達成指標	目標	実績	チェック	説明	自己評価	行政評価
政策目標（事業③）美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。		(1) 教育プログラム：鑑賞教育 ［重点的な取組み］	●企画展	－	－	－	－	【成果】 ・横浜トリエンナーレでは、ヨコハマスクリーニング、ヨコハマラウンド、ヨコハマサイト、ヨコハマプログラムといった、展示と同じコンセプトでの事業が多数展開されました。同時に、中高生が小学生の鑑賞を導く中高生プログラム、市民のアトリエでの鑑賞とワークショップの講座、子どものアトリエによる鑑賞講座など、従来当館が実施してきた講座がトリエンナーレで展開されました。 ・また、障がい者向けのプログラムも、トリエンナーレに合わせて実施しました。個人向けには、視覚障がいのある人のための作品解説ツアー、視覚障がい者とつくる美術鑑賞ワークショップを行い、学校向けには、2校のツアーを行いました 。 ・ボランティアによる鑑賞サポートもトリエンナーレの時期に集中的に提供しました。100名を超えるトーカーが、団体向けの事前レクチャーを当館で、個人向けのトークを3会場で提供し、子どものアトリエのフリーゾーン参加者に計画的に鑑賞機会を提供するなど、前回展を大きく上回る活躍をしました。なお、外国人向けトークは、IBAまでのスタートを目指して企画し、英語と中国語で行いました 。 【課題】 ・鑑賞教育は設立以来、多様な来場者への鑑賞機会の提供、学校連携とボランティア活動の立上げと拡大を担い、毎年新しい事業に挑戦し、メディアや美術館関係者の注目を集めていますが、その分、当初想定していたよりも人的稼働がかかっています。現在は、予算に制限があるため、アルバイトを断続的に雇用することで対応しています。今後は、館内で協議して、公的な美術館として重要である一方で効率化に限界がある教育普及を一層充実させるための財源を検討していきたいと考えています。	【評価できる点】 ・企画展、コレクション展等の事業を活用し、一般の鑑賞者、学校の教員、生徒・児童、障害のある方、外国の方その他の幅広い世代・立場の方々に、様々な切り口から鑑賞を深める事業を多数行っており、高く評価できます。 ・今年度は、トリエンナーレと連動した取組も顕著であり、特にボランティアの参加機会を相当数確保し、個々の能力に応じた活躍の場を設けています。 【改善が必要と考えられる点】 ・現在の活動を発展的に継続することにより、作品鑑賞の理解に繋げ、横浜美術館の付加価値を高めていくことを期待します。
	17		・講演会	2回/展	2～8回/展	A	・ファッション：4/22講演会,5/27シンポジウム ・横浜トリエンナーレ：1/15,3/25,5/28,8/4-5,8/26,9/18, 10/21,11/3ヨコハマラウンド1～8 ・石内：12/9アーティスト対談,1/13アーティストトーク,2/18上映&トーク,3/3アーティストトーク		
	18		・ギャラリートーク	2回/展	4～5回/展	A	・ファッション：4/28,5/12,19,26,6/9 ・横浜トリエンナーレ：8/19-20,25ヨコハマラウンドbis4回 ・石内：1/6,19,2/3,16		
	19		・教師向け鑑賞ガイド(ウェブダウンロード)	1回/年	1回/年	B	・ファッション：5/1公開		
	追加2		・その他【追加実績】	－	14件	A	・ファッション：5/20アートクルーズ， 5/21Think of Fashionトークイベント ・横浜トリエンナーレ： ・7月子ども向け鑑賞ポケットガイドを市内全小中学校等の児童・生徒に配付 ・会期中　ヨコハマサイト ・8/17-18子どもアドベンチャー ・8/20ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017ワークショップ ・8/21,28, 9/9,10, 10/9,14,15,22,29, 11/4,5グリーンライトワークショップ ・9/1-5,13-17水族館劇場(ヨコハマプログラム) ・9/9アートクルーズ ・9/10,24,10/1 子どものアトリエ子ども向け講座 ・9/16,17,10/7,8ヨコハマスクリーニング ・10/27夜間開館スペシャルトーク ・石内：2/10アートクルーズ ・NAP：3/18アーティストトーク		
			●コレクション展	－	－	－	－		
	20		・美術館職員の専門性を活かした各種トーク	8回/年	11回/年	A	・Ⅰ期：4/28,5/12,26,6/9,23ギャラリートーク ・Ⅱ期：12/22,1/12,26,2/9,11,23ギャラリートーク		
	追加3		【追加実績】	－	1件	A	・5/21菅木志雄 アクティヴェイション		
	21		・創作体験を取入れた鑑賞プログラム	1回/年	1回/年	B	・6/18, 7/9,30, 8/6,11,20,27(こども探検隊), 9/10, 10/29, 11/23, 3/25中高生プログラム		
	22		・特別支援学校向けプログラム	2回/年	4回/年	A	・4/28,10/1,20,1/26 ＊8/23 10/1リハーサル		
	追加4		【追加実績】	－	2件	A	・個人向け ・9/2,9,30,10/21視覚に障がいのある人のための作品解説ツアー ・9/16,23視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ		
	23		・学校連携　教師向け鑑賞ガイド(ウェブダウンロード)	1回/年	1回/年	B	・5/27,6/24,12/9 ・3/15ウェブサイト掲載 *7/29,8/16,17,9/24,10/1,28,1/20グループワーク *1/31&1/31-2/5 2校の公開授業で活用		
	24		・学校連携　アートティチャーズデー	3回/年	3回/年	B	・5/13,9/23,12/16		
	追加5		・学校連携　横浜市芸術文化プラットフォーム【追加実績】	－	4件	A	・6/23,27&29,7/3,5横浜市芸術文化プラットフォーム ・9/27,10/25市中学校,小学校教育研究会美術科部会研修(プラットフォーム) ・8/29国立音大博物館課程授業		
	追加6		・学校連携　その他【追加実績】	－					
	25		●ボランティアによるトーク：個人向け	1回/年	1回/年	B	・横浜トリエンナーレ8/23以降会期中　3会場で定期的・随時トーク		
	26		外国人向け	1回/年	1回/年	B	・横浜トリエンナーレ9/19以降会期中　随時実施		
	追加7		外国人団体向け【追加実績】	－	3件	A	・外国人団体向け：横浜トリエンナーレ10/10以降会期中　随時実施 ・団体向け：横浜トリエンナーレ会期中事前ガイダンス随時実施（ふれあいコンサート含む） ・子どものアトリエフリーゾーン参加者向け：横浜トリエンナーレ8/20以降会期中随時実施（*同日および11/5にもんきりワークショップを実施）		
	追加8		団体向け【追加実績】	－					
	追加9		その他【追加実績】	－					

平成29年度　横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

使命
(1)国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2)美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3)未来をになう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4)文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄（数値目標のみ・記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			平成29年度計画		実施状況			評価	
項目		目標の実践	達成指標	目標	実績	チェック	説明	自己評価	行政評価
	27	(2) 教育プログラム：子どものアトリエ	●個人むけ講座や学校向けプログラムなどの通常業務：利用者数	25,000人 /年	25,669人/年 （再掲：研修10回）	A		【成果】 ・子どものアトリエでは、中期Ⅲ期に向けて、学校のためのプログラムおよび個人講座の再編を試行しています。本年度は、非常に厳しい体制でしたが、学校プログラムを維持しつつ、研修を増やしました。この結果、学校のためのプログラムとバランスをとりながら、子どもとより長時間ふれあい影響を与えることができる教師や保育士に向けた専門性の高い研修を増加させ、より高い波及効果を得られたと考えています。そして、個人講座では、ファッションやダンスのアーティスト、神奈川芸術劇場(KAAT)と連携した2講座を実施しました。今後、このような、美術館のアトリエとしての独自性を発揮することができる講座を増やしていきます。 【課題】 ・現在は、予算に制限があるため、今後は、館内で協議して、美術館の独自性をアピールし、子どもたちの成長に不可欠な活動として時代に即した新たな講座を展開できる財源を検討していきたいと考えています。	【評価できる点】 ・子どものアトリエで、目標を超える参加者がありました。 ・アーティストや外部施設との連携による講座やワークショップ等、中期Ⅲ期を見据えた取組に着手しました。 【改善が必要と考えられる点】 ・子どもの創造性を育む現在の活動を発展的に継続し、横浜美術館の付加価値を高めていくことを期待します。
	28		●第Ⅲ期に向け、外部連携による事業展開を検討： Ⅲ期の学校のためのプログラムおよび個人講座の再編にむけて以下試行 ・学校のためのプログラム（学校のためのプログラムと教師・保育士研修のバランスを見直し、より高い波及効果を狙う）：学校プログラム90校, 研修4回 ・個人講座（アーティストや外部専門文化機関と連携し、美術館のアトリエとしての独自性を発揮する）：個人講座20講座中、アーティストあるいは外部専門文化機関との連携2講座/年 ※中期目標：平成28年10月　検討、平成29年　試行、平成30年　検証予定	実施	実施	ー	・学校プログラム100校(研修10回含) ・個人講座2講座 ・5/5ファッション展子ども向け講座[アーティスト連携] ・6/10ダンスワークショップ講座[神奈川芸術劇場(KAAT)・アーティスト連携]		
	29	(3) 教育プログラム：市民のアトリエ	●環境に関する講座や展覧会と連携した講座などの個人向けワークショップに加え、自主的に制作に取り組むオープンスタジオなどの通常業務：利用者数	5,500人 /年	5,918人/年	B	・環境：5-6月ハンドジューサー＆10-11月ホウキ ・展覧会：5/21刺繍(ファッション)、8/27シュルレアリスム&9/18写真&10/8鉛筆画（横浜トリエンナーレ）	【成果】 ・市民のアトリエでは、展覧会と連携し、美術館ならではの講座の強化を図っています。ファッション展では刺繍、横浜トリエンナーレでは、シュルレアリスム、写真、鉛筆画の講座を実施しました。このうち、写真と鉛筆画は横浜トリエンナーレ出品作家が講師を務めており、アーティスト連携も定着しはじめてきています。 【課題】 ・現在は、予算に制限があるため、集客しやすさの観点で講座を企画することもあり、その結果、民間の講座との差別化が難しくなっています。今後は、館内で協議して、美術館の独自性をアピールし、より新たな講座を展開できる財源を検討していきたいと考えています。	【評価できる点】 通常の講座、ワークショップのほか、展覧会と連動した講座、トリエンナーレ出品作家を講師としたワークショップ等が行われ、目標以上の参加者がありました。 【改善が必要と考えられる点】 ・現在の活動を発展的に継続することにより、市民の創作活動を通じ、横浜美術館の付加価値を高めていくことを期待します。
	30		●著名アーティスト連携による新分野講座	2講座/年	2講座/年	B	・9/18写真 ・10/8鉛筆画		
	31		●東京藝術大学映像科連携講座 ※中期目標：1講座/3年	1講座/年	1講座/年（再掲）	B	・9/18写真		
	32		●横浜市芸術文化プラットフォームによる学校連携	3回/年	4回/年（再掲）	A	・鑑賞教育で実施		
	33	(4) 市民協働：ボランティア等	●子どものアトリエボランティア	20人/年	31人/年	A	・4/1-3/31	【成果】 ・計画通り進捗しました。 【課題】 ・ボランティアルームなどの環境の整備をし、より効率的で質の高い事業を提供することを検討します。	【評価できる点】 ・各事業で目標以上のボランティア参加者数となっています。 【改善が必要と考えられる点】 ・現在の活動を発展的に継続してください。 ・ボランティアの参加者が、自身の能力を発揮できる場所として、積極的に参加し、あらゆる方へのクリエイティブ・インクルージョンの取組を深化させていくことで、新たな繋がりの場の創出となることを期待します。
	34		●美術情報センターボランティア	5人/年	9人/年	A	・3/7		
	35		●鑑賞ボランティア ※中期目標：トリエンナーレ 100人/年	100人/年	ヨコトリトーカー107人(うち当館トーカー42人)	B	＊参考)当館トーカーH28.3-H30.3 65人		
	追加10		その他【追加実績】	-	1件	A	・8/7-9/12 グリーンライトワークショップボランティア		
			●ビジターサービス	-	-	-	-		
	36		・横浜シティガイド協会等と連携した活動	2回/年	2回/年	B	・3/9-10　NPOによるボランティア研修		
	37		・外国人、障がい者、観光案内へのきめ細やかな応対を行うビジターサービス・ボランティアの推進検討	10人/年	14人/年	A	・4/1-3/31		
	38		●「原三渓市民研究会」等と共同研究会実施	1回/月	1回/月	A	・4,9,11月除く毎月　研究会(7月館外) ・4/8 箱根小田原ツアー ・9/9 本牧ツアー ・11/11シンポジウム		
	39	(5) 市民協働：コレクション・フレンズ	●参加者数の拡大	180口	204口	A		【成果】 ・計画通り進捗しました。 【課題】 ・今後は、協力会との関係を活かした営業体制を検討したいと考えます。	【評価できる点】 ・参加者数を継続して増加できていることを評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・自主財源の獲得という観点からも、引き続き多様なメニューを検討し、参加者を継続して増加させていくことを期待します。
	40		●メンバーシップの多様化とプロモーション策検討： ・多様化　平成28年4月　以降継続 ・プロモーション　1月実施	実施	実施	ー	・H28.4以降　上位階層メンバーシップ継続 ・12月　次年度プロモーション		
		(6) 市民協働：各種社会貢献事業	●アウトリーチ	-	-	-	-	【成果】 ・アウトリーチでは、従来の病院に加え、新たな病院と連携を開始しました 。高齢者施設でのアウトリーチでは、実施回数を増やし、音など五感を刺激する内容に発展させています。また 、従来より引き続き、市内の若者自立支援組織と連携し、アウトリーチと当館でのワークショップを実施しています 。 【課題】 ・アウトリーチ先を開拓し、新たなプログラムを開発することを検討します。	【評価できる点】 ・美術館に来ることが出来ない方の集まる場所などへ積極的に出向き、アートの魅力を様々な手法により伝えられていることを評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・今後、大規模改修期間中の休館期間におけるアウトリーチの実施も視野に入れながら、教育機関等と連携し、市域全体へ広げていくことを期待します。
	41		・病院等	2回/年	3回/年	A	・7/18 横浜医療福祉センター港南 ・9/6 横浜市立大学附属病院 ・10/5 HTA神奈川県こども医療センター		
	追加11		【追加実績】	-	1件	A	・10/30,11/24HTA保育園		
	42		・福祉施設	1回/年	2回/年	A	・9/29,30　K2インターナショナル ※10/3,14,2/7当館内ワークショップ実施		
	43		・高齢者施設	1回/年	2回/年	A	・5/18,1/23 戸部ハマノ園[横浜国立大学連携] ※前段として5/10,1/16横浜国立大学と当館で研修		
			●人材育成	-	-	-	-		
	44		・博物館実習:H30実施に向けて準備	実施	実施	ー			
	45		・子どものアトリエ　インターンシップ	5名/年	14人/年	A	・4/1-3/31　6人/年 ・8/6-9,8/20-23 8人/年[城西国際大学]		
	追加12		【追加実績】	-	1件	A	・2/26-1/31 教育プロジェクトインターン3人		
	46		・教師のためのワークショップ	2回/年	2回/年(再掲)	B	・子どものアトリエで実施		

平成29年度　横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

使命
(1)国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2)美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3)未来をになう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4)文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄（数値目標のみ･記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			平成29年度計画		実施状況			評価	
項目		目標の実践	達成指標	目標	実績	チェック	説明	自己評価	行政評価
3 施設の運営事業		(1) 来館者サービスの充実	●四つの基本方針に従った来館者サービス業務	－	－	－	－	【成果】 ・昨年度に引き続き、委託会社契約に質向上に関する項目追加を継続し、顧客サービス員の質向上を図っています。 ・首都圏や近隣就業者を狙った企画展毎の夜間開館の継続実施や、5月には第56回国際粒子線治療共同グループ年次大会ガラ・ディナーなどのレセプション実施を通じ、多様な来館者にお越しいただけるよう工夫しています。 ・横浜トリエンナーレ開始前にWiFiを拡充する等、館内でのお客様の利便性を高めると同時に、本年度もカフェイルミネーション、お正月装花など 、心地よい空間を作り上げるよう努めています 。 【課題】 ・環境の整備をし、あらたなサービスを効果的、効率的に提供することを検討します。	【評価できる点】 ・様々な場面における、来館者サービスの取組により、より良い鑑賞機会の創出に向けた工夫を行っていることを評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き、来館者サービスの充実や柔軟な運営を積極的に検討し、館の魅力を高め、展覧会開催時の集客に繋げていくことを期待します。
政策目標（施設運営①）お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います。	1		1)顧客サービスの質向上 2)顧客サービスの拡大：市民協働 ・個人向け（ボランティア）：託児⇒ベビーカー付添 車いす付添 外国人調査等対応 ・団体：一般/学校 ・観光客：旅行会社に営業しレセプション実施 ・近隣就業者：かもめ/マークイズ 夜間開館　1回/展 3)館内配布パンフレットやサイン ・マニュアル策定・マニュアル外の修正 ・新情報機器 ・大規模改修前後の計画 4)季節感あるおもてなし ・ソファ ・植物	実施	実施	ー	1) 委託会社契約に質向上に関する項目追加継続 2) 多様な方々が来館しやすくなる施策を実施 ・団体：23団体に事前レクチャー提供（横浜トリエンナーレはボランティアトークとして実施） ・観光客等：5/11第56回国際粒子線治療共同グループ (PTCOG)年次大会ガラ・ディナー ・近隣就業者： ・マークイズ4/11,5/9,6/13,7/11, 8/8,9/12,10/10,11/14,12/12, 1/9,2/13,3/13 ・MMCC　5/17 ・かもめスクール 9/8 ・夜間開館　5/17, 10/27-28, 11/2-4, 3/3 ・街コン　9/17,2/23 3) パンフレット等整備 ・7月　WiFi拡充 4) 植物、ソファ設置開始 ・11/17-3/4 カフェイルミネーション ・1/5-7　門松 ・1/5　お正月装花		
	2		●第Ⅲ期に向け、さらなるお客様の高い満足度をめざした具体的な取組みを検討：政策経営協議会で検討	1回/年	1回/年	B	・大規模改修中のサイン・パンフレット・新情報機器・ソファ等更新 9月　実施事項、予算およびスケジュール確定 10/23 政策経営協議会で報告		
	3		□展覧会来館者アンケート「スタッフの対応」評点	4.00以上	4.25	B			
	4		□展覧会来館者アンケート「使い勝手のよさ、清潔	4.30以上	4.52	B			
		(2) ショップやカフェの付加価値の向上	●ショップ	－	－	－	－	【成果】 ・計画通り進捗しました。 【課題】 ・環境の整備をし、あらたなサービスを効果的、効率的に提供することを検討します。	【評価できる点】 ・ショップやカフェ目標に対する取組が着実に行われており、展覧会に応じた、提供商品・メニューの工夫により、来館者の鑑賞前後の楽しみを増やしています。 【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き、展覧会と連動した限定メニューの提供等、魅力向上につながる取組を期待します。
	5		・コレクションを活用したオリジナル商品	1商品/年	1商品/年	B	・4月　コレクション写真葉書制作：新作4作品		
	6		・企画展関連商品コーナー	1回/企画展	1回/企画展	B			
			●カフェ	－	－	－	－		
	7		・コレクションを活用したオリジナルメニュー	1商品/年	1商品/年	B	・1月		
	8		・企画展関連メニュー	1商品/企画展	2～3商品/企画展	A	・ファッション：2商品 ・横浜トリエンナーレ：3商品 ・石内：2商品		
政策目標（施設運営②）財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します。	9	(1) 適正な施設管理	●大規模改修：大規模改修の実施にむけ市と協働	実施	実施	ー		【成果】 ・中期Ⅲ期の初年度の開館30周年事業については、9月に財源確定、10月体制・事業確定と計画的に進めています 。 【課題】 ・大規模改修については、ハードとソフトの両面から横浜美術館の姿を描き、推進していきたいと考えます。	【評価できる点】 ・適切な施設管理が行われています。 【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き、安全な施設管理を継続していただき、大規模改修に向けた種々の検討への協力をお願いします。
	10		●日々の適正な施設管理：安全管理事故	0件/年	0件/年	B			
			●災害対応	－	－	－	－		
	11		・マニュアルの最新化と共有	1回/年	1回/年	B	・5/12		
	12		・訓練	2回/年	2回/年	B	・8/29,2/27		
	13		●開館30周年事業を検討する：H28の案に基づき以下準備 ：実施年のH31に向け、体制・事業・財源の確定 ※中期目標：平成28年10月　案策定、平成29・30年　平成31年にむけて検討	実施	実施	B	・9月財源確定、10月体制・事業確定		
		(2) 経営基盤の強化	●ファンドレイジング	－	－	－	－	【成果】 ・企業連携プログラムHeart to Artについては、3社と契約し、その他企画展毎に企業協賛の獲得に努め、5社の支援をいただき、結果的に、昨年度より1社増となりました。このご支援を通じ、石内展オープニングを華やかに彩る等、多彩な活動をすることができました 。 ・そして、大規模改修が予定されている中期Ⅲ期の間に、初年度の30周年に向けた個人向け寄付のため、H29に調査を行いました。今後は、H30実施を進めると同時に、協力会との関係を活かした営業体制を検討していきます 。 【課題】 ・環境の整備をし、あらたなサービスを効果的、効率的に提供することを検討します。	【評価できる点】 ・ファンドレイジングについて、増数目標には達しませんでしたが、昨年度に引き続き契約数を増やし、事業の拡充に活かしている点を評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・継続的な財政基盤の安定に向けて、企業が長期的に支援できるプログラム等を検討することについても、期待します。
	14		・平成26年度に始動した法人協賛制度支援者拡大：2社増/年	2社増/年	1社増/年	C	目標6社、実績5社		
	15		・企業との関係構築にむけた継続的な営業活動：10	10社 /年	19社 /年	A			
	16		・第Ⅲ期にむけた、新たなファンドレイズを検討：Ⅲ期にむけて以下試行 ：寄付または支援付グッズ制作 ※中期目標：平成28年10月　検討、平成29年　試行、平成30年　検証予定	実施	実施	ー	・H31の30周年にむけた個人向け寄付の準備として、他館調査や財団内規程調査などを実施		
	追加1		・その他【追加実績】	－	2件	A	・11/25-26　SUV展示会 ・12/15-16　オートカラーアワード		
	17	(3) 人材強化	●国際グループの新配置：平成28年4月実施済	実施	実施	ー		【成果】 ・計画通り進捗しました。 【課題】 ・人材強化については、次期指定管理期間となりますが、大規模改修後の横浜美術館の姿を描き、人材育成を検討していきたいと考えています。	【評価できる点】 ・本指定期間に設置した教育普及グループ、H28年度新設の国際グループ等の体制を活用した事業運営が行われています。 【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き、学芸員をはじめとした、施設職員の専門性向上の取組を期待します。
	18		●学芸員、エデュケーター育成を再構築：学芸員、エデュケーターの求める人材像を定め、人材育成に活用	実施	実施	ー	・財団スケジュールに従い実施		

平成29年度　横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

使命
(1)国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2)美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3)未来をになう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4)文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			平成29年度計画		実施状況			評価	
項目		目標の実践	達成指標	目標	実績	チェック	説明	自己評価	行政評価
4 その他の業務 政策目標（その他の業務）政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します。	1		●市の政策と事業の相互連携：政策経営協議会	4回/年	4回/年	B	・5/22,6/19,10/23,1/15 ※6/23,8/12,21,9/13,10/27,1/12,23外部評価委員の視察対応	【成果】 ・計画通り進捗しました。 【課題】 ・今後は、より、美術振興に資する事業をフレキシブルに密度濃く実施できるよう、指定管理制度に伴う事務低減策を検討したいと考えております。 ・次期指定管理期間となりますが、大規模改修後の横浜美術館の姿を描き、施策を検討していきたいと考えています。	【評価できる点】 予定通り実施できています。 【改善が必要と考えられる点】 特になし
	2		●進捗状況報告　※評価は協約期間終了時に実施	1回/年	1回/年	B	10/23半期振返り報告		
	3		●外部意見の取入れ　外部有識者を交えた教育普及企画運営会議	1回/年	1回/年	B	3/3教育普及事業会議		
	4		●年報発行	1回/年	1回/年	B	6/30発行		
5 人員計画	1		過去の実績を踏まえ、高い専門性を発揮できる組織として、事業展開と施設の安全安心な運営を強化	46 人 ・館長1 人 ・副館長1 人 ・グループ長4 人 ・担当グループ長2 人 ・チームリーダー9 人 ・担当リーダー・職員29人	48人 ・館長1人 ・副館長 2人 ・グループ長5人 ・担当グループ長2人 ・チームリーダー6人 ・担当リーダー・職員32人	－		【成果】 ・計画通り進捗しました。 【課題】 ・次期指定管理期間となりますが、大規模改修後の横浜美術館の姿を描き、人員計画を検討して行きたいと考えています。	【評価できる点】 計画どおり実施できています。 【改善が必要と考えられる点】 中長期を見据えた専門的な人材育成を行っていくことを期待します。
6 留意事項				－	－	－	－	【成果】 ・計画通り進捗しました。 【課題】 ・大規模改修後の横浜美術館の姿を描き、施策を検討します。	【評価できる点】 計画通り実施できています。 【改善が必要と考えられる点】 特になし
保険及び損害賠償の取扱い	1		業務の基準に基づいた適正な取扱い	実施	実施	－			
法令の遵守と個人情報保護	2		コンプライアンス窓口を設置し対応	実施	実施	－	・財団にて設置済		
	3		個人情報保護研修	1回/年	1回/年	B	・2月　全職員実施		
情報公開への積極的取組	4		財団事務局に情報公開窓口を設置し対応	実施	実施	－			
市及び関係機関等との連絡調整	5		横浜市や関連機関との連絡緊密化	実施	実施	－			
その他 1)許認可及び届出等 2)施設の目的外使用 3)人権の尊重 4)近隣対策 5)重要書類の管理 6)行政機関が策定する基準等の遵守 7)法令の制定及び改正への対応	6		法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施	実施	実施	－			
7　収支計画	1		（円） 収入合計　1,030,622,000 指定管理料収入　759,971,000 利用料金収入　63,753,000 自主事業収入　143,368,000 その他　63,530,000		（円） 収入合計　1,040,713,482 指定管理料収入　759,971,000 利用料金収入　66,761,951 自主事業収入 149,358,081 その他　64,622,450		決算「利用料金収入」にコレクション展観覧料収入を含む	【成果】 ・ファッション展及び石内都展の有料入場者数増等により収入増となりました。また、展覧会での会場施工等事業費の節減や光熱費の入札残などによる減を備品購入や修繕にあて、収支としては、1千万円超の黒字となりました。 【課題】 ・年度末に閉幕する企画展の収支予測が難しいため、期末の執行計画の見直しに反映させることが難しい状況です。	【評価できる点】 ・事業収支が好調であったことをはじめ、全般的に良好な収支状況です。 【改善が必要と考えられる点】 ・特になし。
			（円） 支出合計　1,030,622,000 人件費　371,564,000 事務費　7,238,000 事業費　272,422,000 管理費　212,333,000 その他支出　167,065,000		（円） 支出合計　1,024,235,845 人件費　366,706,267 事務費　17,811,624 事業費　243,384,832 管理費　215,712,202 その他支出　180,620,920		決算「事業費」にコレクション展支出含む		

総括	評価	
	自己評価	行政評価
	展覧会については、入館者数はほぼ目標どおりとなり、石内展については、新聞の回顧で取り上げられるなど、美術関係者の注目を集めました。 また、海外発信としては、横浜トリエンナーレに付随して、IBA(International Biennale Association)理事会・総会を文化庁と共催し、横浜の文化を世界に発信しました。 展覧会巡回については、国内はH30の2件の巡回に向け準備しています。また、教育普及については、横浜トリエンナーレに照準をあわせて展開しました。展示コンセプトと同じコンセプトによる事業が多数展開されていると同時に、従来当館が実施してきた講座が横浜トリエンナーレと組み合わさることで新たな広がりがありました。特に、ボランティアトーカーは100名を超え、前回展を大きく上回る活躍をしました。 そして、大規模改修を含む中期Ⅲ期に向けて、コレクション撮影と公開、美術情報センター所蔵の映像資料デジタル化、子どものアトリエのプログラム見直し、ビジターサービス拡充、ファンドレイジングの見直しを計画的に進めています。	・展覧会については、全体として目標水準の来館者が訪れています。引き続き、どのように館の特色を打ち出しより多くの人に魅力を伝えていくか、継続した検討と実践を期待します。 ・個々の展覧会について、美術館主催の2企画展は、横浜の地域性・歴史性、横浜を創作活動の拠点とする作家等に着目し、それぞれ独自の切り口により意義深い企画が実施されました。 ・また、コレクション展は、各企画展と関連した展示の他、別途企画性のある展示も合わせて行い、収蔵作品の多様な魅力を伝えました。 ・特に、トリエンナーレでは、企画実施の中心的役割を果たすと共に、開催機会を活用した、様々な鑑賞プログラムや創作支援、ボランティア活躍機会の提供などを行い、様々な機会を通じ、横浜美術館の存在価値を高めたと言えます。 ・教育普及やアウトリーチその他の幅広い周辺事業により、様々な市民に向け、アートの魅力を伝えると共に、文化芸術活動のすそ野を広げる取組を精力的に行った点は、高く評価できます。 ・今後は、個々の取組に残された課題を検証しつつ、本指定期間の到達点を目指した、さらに一段高い視点での取組に繋げていくことを期待します。